

テーマ

良質で効率的な摂食嚥下 リハビリテーションについて考える

座長

医療法人金上仁友会 金上病院 院長

安藤 正夫 先生

演者

医療法人社団和風会 千里リハビリテーション病院
言語聴覚士サブコーチ

北野 剛史 先生

演題

摂食嚥下障害スクリーニングの
効率的運用と可能性について

演者

徳島文理大学 保健福祉学部口腔保健学科
客員教授

中野 雅徳 先生

演題

誰でもどこでもできる摂食嚥下の
スクリーニング (Swallow-10)

日時

2025年 11月7日(金)
12:40~13:30

会場

第2会場 大阪国際会議場12F
特別会議室
〒530-0005 大阪府大阪市北区中之島5丁目3-51

学会HP

<https://gakkai.co.jp/jamcf33/index.html>



摂食嚥下障害スクリーニングの 効率的運用と可能性について

演者

医療法人社団和風会 千里リハビリテーション病院
言語聴覚士サブコーチ

北野 剛史 先生

医療法人社団和風会橋本病院および千里リハビリテーション病院の摂食嚥下リハチームでは、画像診断、嚥下造影検査、定期的な各種評価の結果に基づき、患者の全身状態や認知機能、さらには患者本人および家族のニーズを考慮して、個々の患者に適した訓練法や食形態を決定している。訓練法に関しては一定のガイドラインが示されているが、食形態の決定については、未だ明確に確立されているとは言い難いのが現状である。特に認知機能が低下している患者では、検査や評価時に十分な指示が伝わりにくいため、実際の能力を正確に評価できていない可能性がある。この度、徳島文理大学との共同研究で、従来から実施している摂食嚥下障害に関する検査（評価）に加えて、摂食嚥下障害のスクリーニングツールである聖隷式嚥下質問紙による評価を入院から退院までの1か月ごとに実施した。その結果、聖隷式嚥下質問紙の評価スコアはFOIS、改訂水飲みテスト、FIMと有意な相関があり、特にFOISとの関係において、経管栄養から経口栄養に切り替える上での参照基準になり得ることが示された。聖隷式嚥下質問紙の15の質問項目から他者による評価が可能な10項目を選択したSwallow-10は、認知機能が低下した患者を含む自答困難な対象者に対して、各種検査の代替となり得ることから、摂食嚥下障害スクリーニングの網羅性向上とリハビリテーションの効率的運用が期待される。

誰でもどこでもできる摂食嚥下の スクリーニング（Swallow-10）

演者

徳島文理大学 保健福祉学部口腔保健学科
客員教授

中野 雅徳 先生

摂食嚥下リハビリテーションは、「口から美味しく食べる」を支え、その後の患者のQOLを左右する重要な役割を担っている。良質で効率的な摂食嚥下リハビリテーションシステムの構築は喫緊の課題となっている。聖隷式嚥下質問紙はエビデンスに基づいた摂食嚥下障害のスクリーニングツールで、感度、特異度に優れ、嚥下障害のステージ（部位）を推定できるという特徴を有している。また、患者本人の回答が困難な場合には、家族や医療・介護従事者が、観察に基づいて回答することができる。演者らは、本質問紙のスコア評価法ならびに、改訂版として15の質問項目から他者の観察による評価が可能な10項目を選択した認知機能低下者向けのSwallow-10を開発した。回答選択肢の重い症状を4点、軽い症状を1点としてスコア化し、合計点数に対するカットオフ値が5点で摂食嚥下障害の可能性が高いとする評価法である。認知機能低下者に対しては、各種検査や評価が困難な場合が少なくなく、提供する食形態の決定を困難にしている。前講演でSwallow-10は、摂食嚥下状態の評価の代替や食形態決定の参照基準になり得ることが示された。本講演では、良質で効率的な摂食嚥下リハビリテーションの構築を目指し、多職種間での情報共有を容易にする直接入力フォームなどを提示する。なお、スコア式の聖隷式嚥下質問紙のpdfファイルは日医工株式会社のHPからダウンロード※できる。

※ <https://www.nichiiko.co.jp/medicine/swallow/data/score.pdf>